

岩崎純一歌集		『新純星余情和歌集』>2019年の部					
歌集名読み		しんじゆんせいよせいわかしふ					
作者		岩崎純一					
通釈・語釈		袴ちの子、岩崎純一(自釈)					
作者サイト		<a href="http://iwasakiunichi.net/">http://iwasakiunichi.net/</a>					
和歌ページトップ		<a href="http://iwasakiunichi.net/waka/">http://iwasakiunichi.net/waka/</a>					
詠進年月日 題		2019年の歌会・歌合		通釈	語釈	他歌人欄	
主催: 岩崎純一	歌数:20首 歌人数:20名 自歌数:1首	『令和万葉歌会』(れいわまんえふうたかい) : 「うたのわ」にて開催 → 歌会のページ : <a href="http://utanowa.net/party/view/321">http://utanowa.net/party/view/321</a>				評	派生歌など
<p>2019/4/1 出題 (平成31年4月1日から令和元年5月1日まで参加自由。)</p> <p>2019/5/2 判 (令和元年5月2日から令和元年5月31日まで投票自由。)</p>		<p>出題者:岩崎純一(純星)</p> <p>-----</p> <p>新たな元号が「令和」と発表されました。</p> <p>出典 『万葉集』巻五 梅花の歌三十二首、并せて序 初春令月、氣淑風和、梅披鏡前之粉、蘭薫珮後之香。 初春の令月にして、氣淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫す。</p> <p>歌会に冠するにふさわしい元号となりました。</p> <p>平成時代の記憶、令和時代への期待、今上陛下への敬愛の念、皇太子殿下ご即位への思いなどを歌に詠んで下さい。</p> <p>-----</p>					
2013/1/24	名月の待つ方角に 風は和ぎ、皇居に実 りの秋が訪れる	令月(れいげつ)の控ふる方(かた)に風和(な)ぎて 千代田の稲に照る光かな	初春の名月のような良き「令和」時代の待つ方角に風は和ぎ、 やがて秋の千代田区・皇居の千代の稲穂を照らすだろう。「平 成」ばかりが美しい時代ではないと「令和」は知っているはず だから。	◇掛詞「千代田×千代田(区)」 ◇本歌取「面影のひかふるかたにかへ りみる都の山は(都は山の)月織くして」 (定家)	各歌人は最大二人の歌人に投票できる。 岩崎の得票数は4。(他歌人の同数票あり。) 岩崎と同じ前「余情会」の袴ちの子の歌、「君 が代の千代に八千代の八千代田に月影を敷 く秋の令き風」が得票数5で一位。 余情会がトップ2を占めた。		